

## 宇都宮市立瑞穂台小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」など学習意欲に関する質問項目の肯定的回答割合は、市や県を上回っている。学習に対する関心が高く、学習が将来の仕事や生活のために役に立つという意識を持つ児童が多いと言える。

●「1か月に何冊くらい本を読みますか」の質問には、「11冊以上」と回答した児童が約15.8%で、市や県の平均24%より少ない。また、「1冊も読まない」という児童も9.9%おり、読書に親しむ機会を増やしていく必要がある。

○朝食や早寝早起きなど、家庭での規則正しい生活習慣が身に付いている児童が多い。そのため、毎日の家庭学習時間も確保されている。また、学力状況調査の正答率からは、生活習慣との関連がはっきり見られた。

●「人と話すことは楽しい」と回答した児童は、96.0%と非常に多いが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」という質問の肯定的回答割合は47.6%であった。このことから、自分の考えをまとめたり表現したりすることに自信がなかったり、苦手だと感じたりする児童が多いことが分かる。今後、授業の中で自分の考えを書いたり、小グループで意見を交換したりする言語活動の場面を意図的に設け、思考力や発表力を高められるような授業を展開していきたい。

●「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「自分の行動や発言に自信を持っている」の質問項目には、それぞれ、77.2%、64.3%の児童が肯定的回答をしており、市の平均と同程度ではあるが、もう少し肯定的な意識を育てたいところである。